

健康診断受診者の心房細動の状況と心原性脳梗塞

まきの ゆみこ¹⁾ わだ かずみ¹⁾ おむら えみこ¹⁾
牧野 由美子¹⁾ 和田 和美¹⁾ 小村 恵美子¹⁾
おおしろ ひとし²⁾ なごし きわむ³⁾
大城 等²⁾ 名越 究³⁾

キーワード：心房細動，健康診断，聴診・脈診，心原性脳梗塞，
高齢女性の血圧管理

要 旨

2013年度から2023年度の40~70代の健康診断（以下健診）受診者を対象に，心房細動の罹患割合，およびその管理状況を調査した。健診時の心房細動は，男性で圧倒的に多く，高齢になるほど増加した。各年度の罹患割合を経年的にみると割合の低下傾向が認められた。この間，心房細動で「要精査」となる率は低下しているが，直近でもなお2割あり，日常診療における心房細動早期発見の重要性が示唆された。心房細動に関係する要因として高血圧等動脈硬化関連疾患のほか，高尿酸血症の関与が疑われた。今回調査対象とした70代までの女性の心房細動は少ないが，心原性脳梗塞は80代の高齢女性に多いため，高齢女性の血圧管理が重要と思われた。

【目 的】

心房細動は，心原性脳梗塞の原因のひとつとして重要視されており，早期発見と適切な治療が求められている。しかし，症状が現れにくいことから日ごろ医療機関に通院していない者はこれに気付くにくく，通院している者であっても関連疾患以外で通院しており心電図をとる機会があまりな

い場合には，診察する側も気づかない場合がある。年1回の定期健康診断で発見される場合もあるが，40~74歳の医療保険加入者を対象に実施される特定健康診査（以下特定健診）や75歳以上の後期高齢者を対象とする健康診断では心電図は必須項目でないため，受診しているにもかかわらず見落とす可能性が否定できない。

今回，健診受診者のうち，心電図で心房細動と判定された者の状況を中心に分析を行い，心房細動の早期発見・早期治療に役立てることを目的として調査を行った。

Yumiko MAKINO et al.

1) 公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根

2) 合同会社 DATA MILL

3) 島根大学医学部環境保健医学講座

連絡先：〒693-0021 出雲市塩冶町223-1

公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根